

形で市民の意向が出てくるようになったら、やっぱり市民の意見を尊重しなければいけないという立場だけは理解していただきたいんですね。

原口管理者：北本市さん、何かございますか。

三宮副管理者：先ほど私の方はそれぞれその行政の生い立ちに若干の違いがあるということの中で言えば、私どもはその類する土地を持っていないということの現況というか、考え方の中ではこの前の議論、うちの方の議論の中で様々ありました。土地の選定と言うことではなくて、例えばあの周辺のどの土地を取ってみても、基盤がおそらく深いところは何千メートルいってもやっぱり同じような基盤にぶつかるのは、秩父の山みたいなところにぶつかるのは、やっぱりそういうことなんだろうと。それは私も市史をやっていただけに、地理とかそういうことを少しもう一回調べてみました。県史の自然、地理編とか調べてみて、ほぼ私どもの高台とかそれはまた別なんですけれども、そういうところと言えば土地の条件は、どちらに行ったとしても、そう変りなくそれなりのやっぱり費用がかかるんだろうなということからすると、一概に私どもは「じゃあこの土地がいいですよ」と言うわけにもいきませんので、土地についてはそういうこれまでの経緯の中で決まったとすれば、それはそれで瑕疵があるわけではないとして、その土地でよろしいということでございます。

原口管理者：今、北本市さんの方からも発言がございました。まさに私もこの3市の合意と言うのをしっかりと進めていくということで、今までもお話をさせていただき、意見を言わせていただきました。ここで行田市さんの方で、何とかこの今の建設地で納得してもらえないかというふうに私は思うんですけれども、この辺についてはいかがですか。

石井副管理者：その前にちょっといいですか。確認だけいいですか。北本市の市長さんに伺いますけど、現在の安養寺でいいっていうことですね。これだけちょっと確認させてください。

三宮副管理者：様々な私どものこれまで9月にその書類が出てきまして、ずっと考えさせていただきました。最終的には、ごく最近ここでよろしいという判断させていただきました。

石井副管理者：だからはっきり言ってください。いいですか。安養寺でいいかどうかだけ。

三宮副管理者：そのことで私の方は、今朝、事務局にその通知をさせていただきました。

石井副管理者：いいっていうことでね。